

# ‘紅まどんな’の施設活用による早期成園化

傾斜地対応片屋根ハウスは、苗木の生育促進に有効であり、マルドリ方式等との組合せで雨水を利用した少水量での早期成園化が可能である。

## 片屋根(への字)ハウス

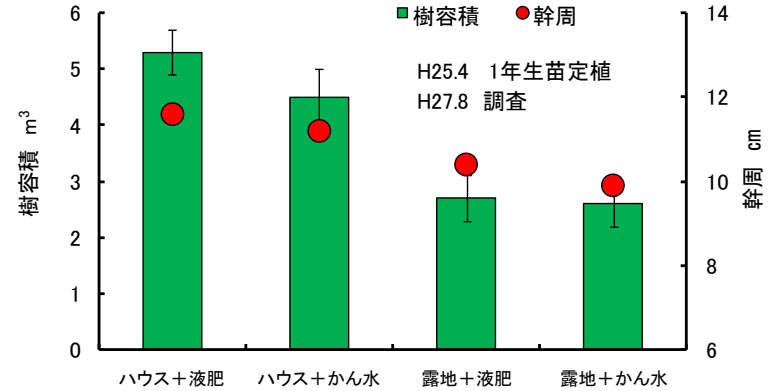


傾斜地に設置できる片屋根ハウスを開発

### メリット

- ①屋根を等高線方向に設置するため屋根面フィルムの被覆作業が軽労働で安全
- ②屋根面と側面の防風防虫ネットで、病害虫や鳥の侵入を防ぐことができる
- ③屋根面フィルムの開閉により、温度管理や雨水の利用が容易にできる

## 苗木の生育促進



片屋根ハウスとマルドリシステム(窒素濃度60ppmの連日朝夕5分かん水)を組み合わせると苗木の生育が優れる

## 現地実証 (松山市堀江地区)



傾斜約18度の実証圃に、面積531.2㎡の傾斜地対応片屋根ハウス(8連棟:間口4m×奥行15~18m)を設置  
設置に要する労力は、90人役、経費は540万円

太陽光発電による揚水システム、マルドリ施設、園内道を設置し、雨水の集積・利用が見込めるモデル園を構築